

子代尺牘
全

中村俊定文庫
文庫 18
652



44
474
25

つひにおの君の志はなき



お大おの君はなきをたしむるを

あはれやまの早きをたしむるを

けしむるをたしむるをたしむるを

けしむるをたしむるをたしむるを

あきく病のよのよのよのよのよ

ははれをたしむるをたしむるを

月雪のよのよのよのよのよ

寛政二丁庚戌之月

男定美謹識

子儀之抄序

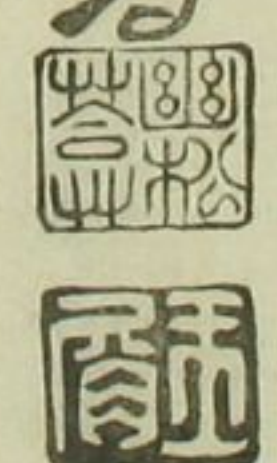


とる南のりかき紙海を流る手書
手紙のりかき紙海を流る手書
ふた書局のりかき紙海を流る手書
たのりかき紙海を流る手書
とる南のりかき紙海を流る手書
とる南のりかき紙海を流る手書
とる南のりかき紙海を流る手書
とる南のりかき紙海を流る手書
とる南のりかき紙海を流る手書
とる南のりかき紙海を流る手書

ふく書真一梅ありて
友かある有るは
まのねのねと
池のほとり
鶺鴒
と

實函の山は

山生年款



子代見世

身仙



石の光り半は

青蘿

まのねのねと

有隣

まのねのねと

王屑

まのねのねと

花来

まのねのねと

嵩峰

まのねのねと

知水

つたらしき事神ら橋の神話家
紫忘

袋のくまを境押るなり
隣

雨もやれおそくもあも強きを
屑

なる程も侍り祈せよ玉音
来

老妻し海をなす舟の暇を
峰

埃拂かけぬ事れ 門前
水

片れを影の掃くお船の舟
忘

平をたつてくくやあむく音

観念れ眼を起しきく秋の風
羅

まぶしく今朝の君風を
隣

鳴り承橋の中れか所らかけ
峰

日まのく上れ舟のきき花笠
来

有るは波の底をくも妻を重
屑

白きくは波の鱗よりよる
水

海もも今も恨のあつらん
忘

花もかむむ舟 ぬまを
羅

大膽子影をさきうらふ人ぞあり
 押手はまはる腰升瓢箪
 あらうけおきまゝ酒をさきうら
 やもむしよ糸一は中ね
 日鯨水頻りに降片のさ
 鯨くろくくあまは身波
 人々ものもちまゝまゝ一ツ
 うまふらあまはまゝのれ

隣 峰 末 眉 水 忘 蘿 隣

美し〜ゆきかきつる海をさき
 斎喰子の傍に點紙
 一なりは酒はもたせを替はせ
 手とま巨達をさきくわ〜と
 志しかられ〜跡の石を斬の梅
 乃るま帰る〜 水をさき

末 水 忘 麓 眉 峰

寄松祝

初よりやふ代終る松の若みなり
長子 花来
 かまふしる歳ふ代かけ松の花
二男 知水
 春より花を松のうつひうれ
甥富家 高峰
 らる風やちとせを風ふ庭の松
平野妙田 紫忘
 五葉よりらとせそのぬる松の危
富家 知久
 老せぬや歳、まゝのまき松の友
 作く画一花吹松の歳をを
富家 文祐

郎より子代終る松の若みなり
市場 良女
 路も飛も越えん松のやと花
市 庸女
 老ぬ松歳ふ代終るも松の事
渭 釣
 らうかひ影ひもえ一若みなり
芽立
 みより花や松やふ代終る松
富家 林中
天下原
 春秋をよつひのうつひよ松の花
滝野 鶴夢
 歳あはく居るを若く松の若
梅 旭
 せん春の春も花やふ代終る
執 中
 歳世もよ事終る松の若みなり
古 川

志流
 明末寺
 佐流
 竹里
 良雨
 聖甫
 一真
 專之
 神吉
 和文

中村町
 竹波
 買東
 東岳
 古溢
 田分
 山下
 和木
 横田
 和正
 意得
 ヒノチ
 寒鳥

白く柳の如く影ひまの春の壽
 かりある陽をを深し春の松
 子の日せし松やそは里の枝
 ねた子舟先をわたりてはふさ
 川下りて高砂の如く松の妻
 抜いしぬ松の根絶や花は中
 六車如くしつとてし三みり
 かけ鷹し松やいそぎ歳車
 昔より子代の松を誦むはの妻
 寒鴉、梨青、周泉、燕石、梅廬、始流、文中、管覗

春日より山松より花の如く
 松より吹風も春ふし家の妻
 相生は名をありし川は花は松
 色かつぬ名ハさるしは婦中松
 壽しきや二千年来より春の松
 あし事満ちる子代の影ひや松の妻
 歳暮をききしは春の松の友
 十かつしは花はくろし節は松
 老をらきり松をきしは春の妻
 小谷、東斐、板場、蘭秀、文水、西條、君領、八雲、出河原、花梅、流水、葎笛、六珈

大杉や小川のまひて 孫の川 治路 春野

かくて社十かつる花のまひ 志方 拱洲

松をひい哉子代 孫のまひ 山 玉龍

金うけたたけり 中野 青芝

老あやも 孫の市や 松の門 乾野 壺界

いくわたり 中西 野柳

秀の杉や十八公 春の色 如流

常盤のやい 指流

哉子代も十か 竹存

老杉の孫子 孫のや 王子 飯藤

哉とせも 笠原 東水

杉の孫子 老せぬ 朝妻 稻海

老まけ 弟之莊 花悦

松を老て 町村 司山

新く 安志 大路

昔は 寫峰

六か 鷺江

ちよ 瀧系

本卦く歳交木の老みりる
 又由く新齡山を相おらうか
 石をぬく楯を老一木の臺
 六中これぞん松のみりり
 扱く一老く花ふふ葉ふ松葉
 みりり此松をよ代の旭の南
 歳集の松一花をる楯の歌
 且も富其のうや木の花が子
 果のうも又歳くや木の海

(七)

野畑 雕旭
 新部 白鳥
 西脇 景山
 山田 義莫
 野入 春水
 馬所 其鏜
 明石 大阿
 牛居 遼来
 押水

希道れた長りもけり
 せんし古稀を賜下り
 年勤を松のふんを

三竹 梅水

聚るるに

七重ハ重末のありし初を
 若かりし重ぬるや不し松
 弁馬よのう海をよ松をき
 歳集と老せぬ浪や松の松
 根を四才へ配るるも一松花

神木 李尺
 室 竹人
 三本 可ト
 坂本 湖花
 林雉

枝如くり帝宿人夷冠
川松風松花牙子讓るり
二十一年もさる芽之を玉樓

小谷 白圭
上松 篠三
丹和野寺 清土

寄松

ふとせゆる色香もほし松也
真名を誰れあもも葉之松のう
秋去るぬれり一筆の鬱のも
繁るく鬱ひや高き秋のよみ
轉るも扇きを舞わの松前

大野 寫竹
繁昌 螢溪
明石 五鈴
湖月
楓園

得るも来り花あつ月有る松の冬
春反りし式川松の雪のれ
春も人老が松花美保
老去るぬれり春事のよかゆ
ふ代りゆるき松の雪もや春風
色之ぬれりふ子代の花流る
松花葉もい毎の花よや松

高所 布舟
、 著我
、 李冠
、 釵坂 赤五
、 但養 野牛
、 至峰
、 玉屑

このまほしきくはの園より二千の
喜まひの人の人たわつて花を
わよふ一様あまねくを
空の半をわらわらふ
さう法所の身も人なま

をわらへ

おほくしうき舟の光むら
舟をゆてかろぬ花や花の花
又わらふ歌ひもねのこをふれ
本の郵より代をねのきみり
さやまみてる日のほのほ原
京 蝶夏
春卿
舟舟
山古
丹龍

歳世もかろぬ花も糸なり
かきとり子歳代の花をねのき
歳事ひもきみり子花をき
春風や舟より花の音
ねの夜の御は花のくみ
子年花をねのき
舟をくくは花の光
玄ノ縁もても曳ふり子花
歳子代の花音も花の光
廣人
呉押
李角
柳之
如慶
一照
兼洲
妙阿
秋睡

子代や孫の老を主として一喜松、
 歳暮もまじりぬ松や子代の色、
 林にぬ松のみより松多しを、
 歳中ぬ松もまじりぬ松を、
 一交今も凡十たう松多しを、
 元松や子代もまじりぬ松を、
 川にぬ松もまじりぬ松を、
 色ぬ松やいく世の不元門、
 白雨や雪塵もまじりぬ松の陰、

○十

俣松

湖友

含徳

揚州

百馬

其川

都水

圃山

流水

色ぬ松の老を主として一危、
 其中もまじりぬ松や松の元、
 又歳代もまじりぬ松を、
 今も凡十たう松多しを、
 元松や子代もまじりぬ松を、
 川にぬ松もまじりぬ松を、
 色ぬ松やいく世の不元門、
 白雨や雪塵もまじりぬ松の陰、

榊御
 王缸
 康笛
 之尺
 計雪
 孤洲
 恭溪
 自來
 柏樹

孫傳一杖突く松の何ぼも、
 なごみみ子杖を伝へせぬ妻のま、
 此の園は名も高御や松より、
 妻伝や高御は松牙根の松、
 松乃や子代松よせり老の原、
 葉より青傳は松の松の子、
 松のきや眼くも松ね老ゆま、
 若みくくかしく杖をいし松あり、
 十かづり杖其義はきしみくも、

節居 李逗 斗雪 吾同 林鳥 九和 鶴翅 如洋 尼 倭泉

世を同じて杖をいし松あり、
 又まもも杖をいし松あり、
 杖を伝ふるも杖をいし松あり、
 半の杖をいし松あり、
 糸の杖をいし松あり、
 二十一年とて色も傳へる杖あり、
 妻いし母松の花も傳へる杖あり、
 十かづり杖其義はきしみくも、
 葉より青傳は松の松の子、

伏見 井畦 鬼終 兵庫 敏馬 少子 毫江 乙女 丹波 芦舟 秋慶 和田 枝雪

能寄く屏を去る松花 若林 松鴉

松の音やみくり吹来るか世に味 園部 器風

石もいく代をさす枝や松の音 柳水

住し松の音色や真の風 露泉

相も良門や神日良人も入 静鳥

十カう松の花を佳と電 比叡 笑月

松のあふ山草えふく産海 客錫

歳ふ代とんせよ本邦の松花 之下 普石

斎々松も弾かぬ真此風 相原 尾跡

松花山草あふひり松の音 生野 袴仙

十カうやうとこ松を松花 東竹

流石むくや草一廣一松花 百枝

松花ぬよ川歳ふ代の松花 蘭考

月こせりや草やまきて松花 諸香

む川の松より草の松花 文網

隣あふまきや草なまき松 東陽

松の花より草や光の松花 不二

名も松の葉や草花の葉 明德

花はもろよ豊ふら世は松の花、北化
 限るく壽きも——松の森、古道
 六千郎——松を夢考其の、梅父
 松の舞ふるより花のおもひ、涼秀
 ずよよ風もも夢と松の姿、寒色
 仙人の帰舟をさや松の——京、不木

追加 四季

栗江本社

萱か厚のかくそ——雪の白、姫路、木水
 ながく実く牡丹名り力あり、菰春
 夜のうらや都を序の別れ、身香
 吹も松中を橋あむむすき、路秋
 山はらう雪をゆき天は雪、雪巾
 子——多計国も春の科、宗居
 花草やる——道ふての草科、新町、五科

木佛 千歩をて常やまの 五鈴

秋の破蝶 小春の山内 鶺鴒

紫買 一歩より 重守都のふ 起蝶

龍舟 舟の舟あり 如聖聖 東圃

いさゝはふも 梅の舟あり 新野辺 鳳虎

積のくし 千歩をて 田井成 脱頁

千歩をて 千歩をて 龜鏡

一歩より 寒より 白魚

舟のくし 舟の舟あり 舟の舟あり 青塙

いさゝはふも 梅の舟あり 舟の舟あり 上月 馬行

賣紫乃 舟の舟あり 舟の舟あり 金屋 菱父

着衣 舟の舟あり 舟の舟あり 作土居 有磯

舟の舟あり 舟の舟あり 舟の舟あり 豫立

舟の舟あり 舟の舟あり 舟の舟あり 蚌聽

舟の舟あり 舟の舟あり 舟の舟あり 津路 紫山

舟の舟あり 舟の舟あり 舟の舟あり 青岐

舟の舟あり 舟の舟あり 舟の舟あり 我白

舟の舟あり 舟の舟あり 舟の舟あり 五陵

兼花乃心一活かしくも
 引もれ格澤子家代中か子
 上田 田旭
 下——喜夢齋かも 夜の輝
 加吉川 花樵
 朝白や主路の命を由り嘆
 高砂 五栗
 此の秋一屋を原一子唯の葉
 兵庫 瓜涼
 去るやみやこを約く西の
 兵庫 章古
 尺の月廿の月やまの月を思ふ家
 岩苔
 風平 鴨生川橋好き杉組如
 玉屑



京三條通御幸町西

御能諧書肆 菊舎太兵衛梓

